

ドキュメンタリー映画上映会

望むのは 死刑ですかⅡ

オウム“大執行”と私

異形の13人執行。彼らは
何を受け止めたのか。

上映後にトークイベント



友を殺した相手が
死刑に。だが…
(岡田尚)



問答無用で
殺すなんて。
(小川原優之)



私の命も
狙われたんです。
(滝本太郎)



国に、裏切られた。
(永岡英子)

日時

5月29日（日）13時開場 13時半～16時

場所

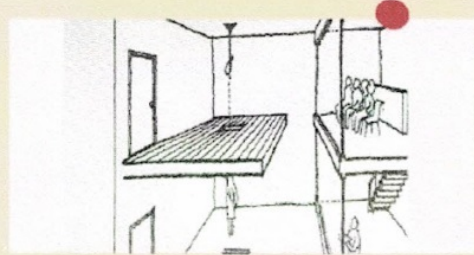
カトリック倉敷教会 2階多目的ホール

倉敷市昭和町2-1-62

会場には駐車場がありませんので、よろしくお願ひします。

国民の8割が死刑に「賛成」?

そんな世論調査の数字が常態化し、国際的な議論にもなっているこの極刑の存在を人々が意識することもまれな、日本。だが2018年夏、異例の事が起きた。13人も死刑執行…刑死したのは、かつてのオウム教団の教祖と幹部たちだ。それは死者29人に及ぶ凶悪犯罪への処罰だったが—わずか3週間のうちに行われた「大量処刑」は、8割の賛成が直後の世論調査で大きく減少するほどの衝撃を、人々に与えた。その執行が終ってひと月と経たない、8月下旬。死刑と社会の在り方を問う映画「望むのは死刑ですか」の上映と同時に、ある特別なトークが行われた。それは、死刑のリアルを考える試みだ。



いま明かされる胸中。その記録。

日替わりで語ったのはオウム事件の被害者側あるいは加害者側で、死刑囚らと直接向き合った「当事者」たち。教祖を死刑から救おうとした元弁護人は、引き受けたと家族にさえ話せなかった現実を。入信した子どもらを取り戻す活動を続ける「家族の会」の中心メンバーは、その子らが凶悪事件を起こして死刑にされた痛みと、捜査や対策の遅れへの憤りを。そして殺害された弁護士の同僚は、死刑反対という信念と報復の感情との間で続けた葛藤を…語り手たちは我々に計り知れない胸中の揺れや戸惑いや重い悔い、そして罰する側である国への不信感までも、赤裸々に言葉にしていく。さらに後日カメラは、殺害された弁護士と親しかった男2人が死刑を賛否に分かれて論じ合う姿さえも、記録する。死刑賛成を貫く方の男は、自身もかつてオウム信者に命を狙われた「被害者」だった。長時間にわたり当事者が語った肉声を集大成して、映画は私たちに問いかける。衝撃の“大執行”は、彼らに何をもたらしたのか? 被害感情の真の姿とは? そして命を奪う究極の刑罰が存在する意味とは…

※この映画には2015年制作「望むのは死刑ですか 考え悩む“世論”」の映像の一部が使用されています

語る人たち

永岡 英子（オウム真理教家族の会）

オウム教団から子どもを取り戻そうとする親たちで会を結成し30年、今も活動中。夫は猛毒で襲撃され障害者に。子どもたちの一部が加害者となりついには死刑となる痛みを経験。

小川原 優之（麻原彰晃の元弁護士）

オウム教祖・麻原彰晃こと松本智津夫被告（当時）の弁護士12人の一人。社会に如何感情が吹き荒れる中、複数の殺人事件を含むいくつもの犯罪について8年にわたる裁判（一審）を闘う。その後は死刑制度と深く向き合い、現在は日弁連の死刑廃止実現本部事務局長。

岡田 尚（被害者の坂本堤弁護士同僚）

法律事務所の後輩だった坂本氏に、オウムから娘を取り戻したいという、ある親の相談を紹介。その後オウム問題に取り組んだ坂本氏と妻と幼い息子が失踪（1989年。殺害されたと推定）されたことを機に、オウムと対峙し続ける。坂本一家の遺族に寄り添ってきた、代弁者の存在でもある。死刑反対派だったが事件で苦悩すること。

滝本 太郎（オウム事件被害者・脱カルト活動家）

友人だった坂本氏と家族の失踪を機にオウムとの関わりを断ち、訴訟や信者の脱会に今も取り組む。自らもサリンガス等で命を狙われている。教祖・麻原彰晃にだけは死刑執行をと、強く主張してきた。



- 参加申し込み： 事前申し込みは不要です。
 どなたでもご自由にご参加下さい：
 参加料： 無料（会場カンパは歓迎です）
 連絡先： 三宅（070-5308-1947）, 山田（090-2805-7240）
 主催： アムネスティ倉敷
 協賛： カトリック倉敷協働体